



平成 25 年 7 月 3 日午前 11 時から実釣。7 月の日中にもかかわらず水は冷たく感じられた



だるま湯前の瀬で。綺麗な魚体の野アユが小気味よいアタリで小バりに掛かってきてくれた

増水後のニゴリが 1 日で解消する紀ノ川最大の支流

貴志川

京阪神から近いところに「こんなに綺麗な川があったのか！」とアユ釣りファンでなくても驚きそうな河川が紀ノ川支流の貴志川だ。温泉やキャンプ場などのレジャー施設も多く家族連れ釣行も楽しそう！

解説◎森岡達也

支流・真国川では 2014 シーズンからルアーフィッシングが解禁！

2014 年度から支流の真国川でルアーによるアユ釣りが解禁される。本流との出合に架かる落合橋から上流部の円明寺橋までがその区間。長いアユザオでは釣りにくい狭い場所でもショートロッドを操るルアーフィッシングなら問題なく釣れるし、サオ抜けポイントの攻略も簡単にはず。この区間の解禁は 6 月の第 2 日曜から 11 月 30 日までだが例年 8 月下旬に 1 日だけ網漁が解禁されるので以降は魚が少なくなる。



写真は 2014 年度のルアー解禁に先駆けて 12 年 8 月 22 日に漁協主導で行なわれた真国川での試釣の様子。アングラーはテレビでもおなじみの久保浩一さん。使用ルアーはアユゲーム用に開発されたカツイチ「リアユ」のほかエバグリーン「スレッジ」というバス用ディープランク。これらにアユ用 3 本イカリをセットしベイトタックルで瀬の石の頭、横の流れでルアーを止め、オトリが泳ぐ様子を演出し追いを待つ。結果は 20cm オーバーを含めて 5 尾の釣果。特にタマツメにアタリが活発だった。アユのルアーゲームに関してはカツイチ・リアユのサイトが詳しい。
http://www.katsuchi.co.jp/reayu/reayu_1.html



泳がせメインでのんびり釣ろう

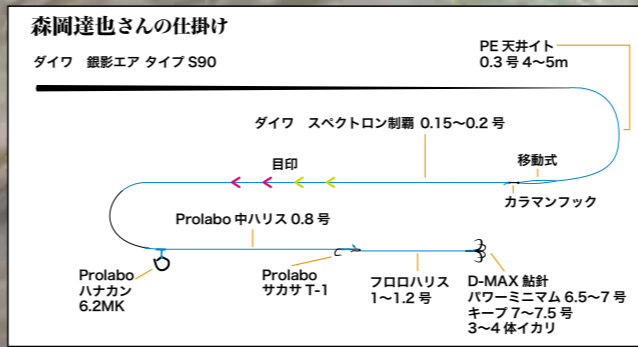
和歌山県の北部を流れる紀ノ川最大の支流である貴志川は、高野山西麓を源とし、野上谷を西流したのち海南市の沖野々で北東へ大きく転じる。合流点付近で北西流となり、紀の川市と岩出市の境界から紀ノ川に注ぐ。

アユ釣り河川としての知名度は低いですが、上流にダムがなく水質はよく綺麗なアユが育つ河川で、メインとなる釣り場は中流域にある「だるま温泉」周辺から下流域だが、放流アユに加え紀ノ川から遡上する天然ものも多く例年安定した釣果が期待できる。釣り人が少ないだけに自分好みのポイントを選択することができる点も魅力の 1 つだ。

もともと水量が少ない河川だけに初期から水温の変動が小さいので釣期は長く、例年 11 月ごろまで充分釣りができる。

この河川の特徴は、他の和歌山の河川にくらべ増水後のニゴリが取れるのが非常に早いこと。雨さえやんで 1 日たてば、他の河川がアウトでも、もう釣りができる状態になる場合が多いというあたりがたい川なのだ。

初期は放流アユねらいで盛期から後半は天然遡上がターゲット。水量が少ない河川のわりにはアユの成長がよく、良型アユが強烈なアタリでサオを曲げてくれる。全体的にフラットな川相で釣りやすくチャラ瀬や早瀬、ト口場での泳がせ釣りやメインとなるが、サラサラした石が多いので根掛り対策はしっかりしておきたい。小バリ(5.5~6号)の 3 本イカリやチラシ、ヤナギ等がよいだろう。



和歌山県を代表する伝統産業の紀州漆器は国から「伝統工芸品」として指定されており全国三大産地の一つ。平成 26 年貴志川漁協アユ遊漁券は (有) 橋本漆芸及び紀州漆器協同組合の協力で紀州漆器蒔絵の技法により作成。デザインは釣りキチ三平作者の矢口高雄さんによるもの。限定 200 枚で販売期間は 4 月末日まで。和歌山県内水面漁連ホームページ上から購入できる

